

めぐりめぐり、
ワンシーン。

特+別+展

ミュシャ

Mucha
and
His Enigmatic
Painting
Quo Vadis

謎の絵画

2025 4月20日 SUN

→ 8月17日 SUN

堺 アルフォンス・ミュシャ館

絵画を織る——幻の計画とは？

特+別+展

背後の男の正体は？

Mucha and His Enigmatic Painting *Quo Vadis*

謎の絵画



堺織通「クオ・ヴァディス」(部分) 2022-24年



チェコを代表する芸術家アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)のパリ時代のフィナーレを飾る油彩画《クオ・ヴァディス》(1903-04年、1920年加筆)。縦横2メートルを超える大画面には、古代ローマの邸宅で少女が大理石像に口づける小説のワンシーンが描かれています。背後から覗き見る人物は、原作小説には登場しません。その正体や、このシーンが選ばれた理由など、本作にまつわる多くのことは、謎に包まれてきました。本展では、1979年に発見されるまで長らく行方不明だった《クオ・ヴァディス》の全貌を解き明かします。また、この絵画にいたるまでのミュシャの創作の軌跡を、代表的な版画作品をはじめ挿絵、素描、油彩、ジュエリーによってとり、当館が誇る世界有数のミュシャコレクションの魅力余すことなく紹介します。さらに、堺市に伝わる絨毯の手織り技術「堺織通」で織られた、ほぼ実寸大のタペストリーを初公開。1910年のアメリカで絨毯の原画となるはずだった絵画の歴史に、新たな1ページを刻みます。

About
プロジェクト「ミュシャ×堺織通」とは？
115年前のアメリカで、《クオ・ヴァディス》を原画とする絨毯制作の構想がありました。ミュシャのもとで果たされなかったその夢を、現在この絵画を所蔵する堺市の伝統技術「堺織通」とのコラボレーションで実現をめざすプロジェクトです。資金は2021年にクラウドファンディングで募り、392名の方々から522万1,000円のご支援をいただきました。製織を担うのは、技術を受け継ぐ大阪刑務所。約2年10か月の時を経て、2024年10月についに完成を迎えました。堺織通史上、至高のタペストリーを、いよいよ本展で初公開いたします。

行方不明の絵画をめぐる運命は？

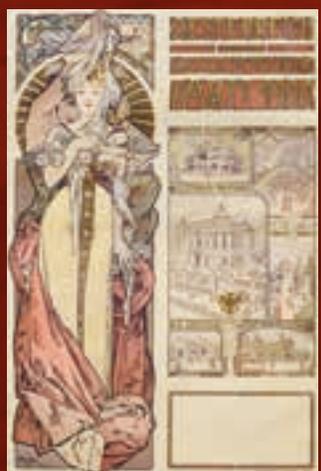
I シーンとエピソード

初期の挿絵からサラ・ベルナール主演の演劇ポスターまで、「物語」を描いたミュシャ作品の数々が並びます。



II 1900年パリ万国博覧会

「アール・ヌーヴォーの勝利」と称された、125年前の壮麗な万博。オーストリア館のためのポスターや彫刻、ボスニア・ヘルツェゴビナ館のための壁画の下絵などを通して、ミュシャの当時の活躍を振り返ります。



III 絵画の注文

ミュシャへの注文の多くは、空間を彩るための絵画でした。パリ時代の装飾パネルをはじめ、アメリカに拠点を移した後に受注制作した油彩画を紹介します。



IV クオ・ヴァディス——絵画と絨毯



ミュシャの絵画《クオ・ヴァディス》を「織る」——1910年の幻の計画が、堺の伝統技術「堺織通」によってついに実現。115年の時を経て叶った夢。ふたつの傑作が並ぶ歴史的機会は必見です！

V ワンシーンの起源

「謎の絵画」の鍵を握るのは、1901年パリで巻き起こった「クオ・ヴァディス」ブーム。原作小説やその挿絵、演劇の記録、そしてある夜のイベントなどを手がかりに、当時の流行の実態に迫ります。



①:《クオ・ヴァディス》1903-04年(1920年加筆) 挿絵、カンヴァス／②:《魯維「白い鳥の伝説」(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙／③:《1900年パリ万国博覧会(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙／④:《1900年パリ万国博覧会(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙／⑤:《1900年パリ万国博覧会(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙／⑥:《1900年パリ万国博覧会(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙／⑦:《1901年パリ万国博覧会(第16巻)挿絵(下絵)》1893年 画、水彩、紙

Photo spot
フォトスポット
“絵画になりきる”再現部屋
絵の中の少女や男性になりきれ、活人画風のフォトスポットも。

絵画を注文したのは、誰？

関連イベント

※本展会期中の観覧券(半券可)の提示が必要です。

01 講演会

「絵画《クオ・ヴァディス》の魅力」

本展ならびにプロジェクト「ミュシャ×堺
緞通」の企画担当学芸員が、《クオ・ヴァ
ディス》に関する最新の調査内容や、展
覧会の見どころを語ります。

日時	5月18日(日) 14:00～15:30(開場13:30)
定員	60名(申込不要、当日先着順)
講師	高原茉莉奈(企画担当学芸員)
参加費	無料

02 講演会

「堺緞通の歴史とミュシャの新作緞通」

堺で江戸時代に始められた手織の絨
毯、堺緞通。
その歴史と現状を紹介し、ミュシャの新
作緞通の意義をお話します。

日時	8月3日(日) 14:00～15:30(開場13:30)
定員	60名(申込不要、当日先着順)
講師	堀川亜由美(堺市博物館学芸員)
参加費	無料

03 ワークショップ

ミニ緞通を織ってみよう

《クオ・ヴァディス》色に染められた残糸をつ
かって、簡易器具を使用したミニ緞通の手
織りに挑戦します。



※写真はイメージです

日時	①4月27日(日) ②6月15日(日) 各日13:30～(2.5時間程度)
定員	12名(申込先着順、受付開始①4月6日 ②5月18日 各日9:30～)
講師	堺式手織緞通技術保存協会、堺市博物館スタッフ
対象	小学生以上(小学生は要保護者同伴)
参加費	無料

※その他追加イベント、申込方法など、詳細については当館HPをご確認ください。

Special スペシャル ※参加当日の観覧券が必要です。

＋ 謎解きクロスワードパズル

本展期間中、オリジナルのクロスワードパズル用紙を希望者
に配布します。展示室内の解説パネルからキーワードを探し、
謎解き体験をお楽しみください。

参加費：無料 ※配布数限定、なくなり次第終了

正解者の中から
抽選で
本展オリジナル
スカーフ(非売品)
をプレゼント!

＋ ミュシャ重ねおしスタンプラリー

ミュシャの誕生日と命日の2つのアニバーサリーを記念し、スタンプラリーを実施し
ます。館内をめぐって7つの色のスタンプを重ねておすと、1枚の絵が完成します。

期 間：7月12日(土)～8月17日(日)
参 加 費：中学生以下無料、高校生以上有料(1枚100円)
※配布数限定、なくなり次第終了

開館時間

9:30～17:15(入館は16:30まで)

休館日

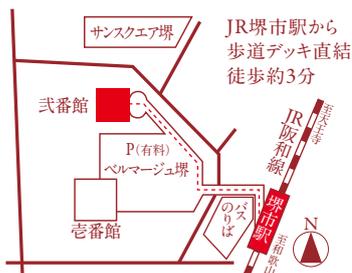
月曜日、休日の翌日(7月22日)
※ただし4月28日、4月30日、5月7日、8月12日は開館

特別展観覧料

一般 900円 / 高校・大学生 550円 / 小・中学生 150円

【主催】公益財団法人堺市文化振興財団、堺 アルフォンス・ミュシャ館
【後援】在堺チェコ共和国名誉領事館、堺式手織緞通技術保存協会
【協力】株式会社インテック、富山県美術館、東京外国語大学附属図書館、
OGATAコレクション、フェニーチェ堺
【制作協力】大阪刑務所

※小学生未満、堺市内にお住まいの満65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方と介助の方は無料。
※20人以上の団体は割引料金適用となります。事前にお問い合わせください。
※その他各種提携割引制度があります。



JR堺市駅から
歩道デッキ直結
徒歩約3分

JR大阪駅から約25分
JR天王寺駅から約10分
JR阪和線
堺市駅下車徒歩約3分

堺 アルフォンス・ミュシャ館

【HP】 <https://muchasakai-bunshin.com>
【TEL】 072-222-5533 【FAX】 072-222-6833
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館

